

紅茶新品種「べにひかり」について

安間舜・松下繁・鳥屋尾忠之・家弓実行
(農林省茶業試験場枕崎支場)

AMMA, S., MATSUSHITA, S., TOYAO, T. and KAYUMI, S.
A New Black Tea Variety "Benihikari"

茶業試験場枕崎支場において育成中であつた茶支FiANC 1144は、昭和44年5月、紅茶用新品種べりひかり(茶農林28号)として登録された。

ここに育成経過ならびに特性の概要を述べ、参考に供したい。なお本品種の育成に直接従事したのは泊純ほか12名および筆者等である。

来歴ならびに育成経過

べにひかりは昭和27年、鹿児島県農事試験場知覧茶業分場枕崎紅茶試験地においてべにかおりを母とし、Cn 1を父とした交配を行ない、その実生中から選抜されたものである。

系 統 図

Ai 21 × NkaO 3……………昭和9年交配
べにかおり × Cn 1……………昭和27年交配
べにひかり

その後採種(昭和28年)、個体選抜(昭和34~35年)、系統比較試験(昭和38~43年)、特性検定および増殖は農林省指定紅茶育種試験、九州農業試験場茶業部、農林省茶業試験場枕崎支場が担当した。

また昭和39年から鹿児島、宮崎、高知、三重、静岡(金谷)の各県で本系統の適応性が検討された。

昭和44年2月までの育成地および系統適応性検定試験地の成績から晩生種で、品質特に香気がすぐれ、多収で、耐寒性が強いことなどが明らかとなり、紅茶用新品種べにひかりとして登録された。

特性の概要

形態的特性 成葉はだ円形でやや大葉に属し、淡緑色を呈する。幼芽は淡黄色で光沢に富む。

生理生態的特性 樹姿は中間型である。樹勢が著しくおう盛で初期生育もすぐれる。どちらかといえば芽数型に属するが新芽は均一によく伸びる。

晩生種で摘採期はべにほまれとほぼ同じである。

冬期の寒害に対する成葉の耐凍性や幼木期に発生

しやすい幹の裂傷型凍害の抵抗性も強い。さらに潮風害に対する抵抗性も強いことが認められている。

さし木発根性もすぐれ、育苗は容易である。

収量 べにほまれより著しく多収で、はつもみじに近い収量がある。

品質 特に香気にすぐれ、水色、滋味もべにほまれと同程度かむしろすぐれる。

適 地

現在までの成績から適地は西南暖地の紅茶生産地帯と思われるが、耐寒性が強いので適地はかなり広範囲に及ぶものと思われる。

栽培上の注意事項

樹勢が強く、直立気味であるため、仕立てに際しては、すそあきにならないように注意する必要がある。

命名の由来

紅茶品種に要望されている形質を兼備した品種で、紅茶用品種中最もすぐれるといった意味から命名された。

一 般 特 性

項目	品 種	べにひかり	べにほまれ	はつもみじ
樹 姿		中	中	中
樹 勢		強	中	強
早 晩 性		晩	晩	中
耐 凍 性	成 葉	強	強	中
	幹	極 強	弱	強
さ し 木	成 苗 率 %	72	36	46
	生 育	良	中	中
収 量 6 年 生 kg / 10a	一 番 茶	320	109	337
	二 番 茶	178	80	202
	三 番 茶	135	107	183
	年 間	633	296	722
品 質 一、二、三 番茶平均	香 気	19.8	19.5	17.8
	水 色	19.6	19.5	17.6
	滋 味	19.6	19.5	17.6
	穀 色	8.8	9.5	7.3
	計	67.8	68.0	60.3